



折 木字高萩には、法壺山東禪寺があります。開山は文明元年（1469年）と伝えており、縁起の『法壺山東禪寺古記』によると、開山徳翁上泉和尚がこの地の阿弥陀堂で十七日間の坐禅観法を行い、満願の日の明け方に阿弥陀如来が瑠璃の壺を捧げて「これ仏法の法壺、この地に寺を立つべし」との夢想があり、醒めると法壺が傍らにあったので益々信心を深くし、なお十日の坐禅を続けたということです。



木造阿弥陀如来座像

知 機山往生院成徳寺は、元徳2年（1330年）松峯山如来寺（いわき市平山崎）の開山高蓮社良山妙観上人の弟子である真蓮社良天聖観上人によって開山されたということです。成徳寺に内仏として安置されている「木造阿弥陀如来座像」は鎌倉三工の一人である湛慶作といわれ、元禄3年（1690年）に鎌倉の順宗法師から寄贈されたものです。昭和28年に県重要文化財の指定を受けています。また、「岩城三十三所観音霊場」札所三十一番の別当寺でもあります。

地 蔵さまの石像は広野でも数多く見られ、そのひとつひとつに地藏さまにまつわる話が伝承され、町民に信仰されています。平安末期頃に地藏信仰は広まったと言われ、月の二十四日を縁日として、地藏尊を心に念じその名号を唱え、西方浄土へ極楽往生を祈願するものです。夕筋の「鼻取り地藏」は、地藏さまが子どもの姿に鼻取りをし、田植え作業に苦しむ農夫を助けたという伝承で、子どもの身代りに地藏さまがなるといふ子安信仰の一形態と考えられます。また、下北迫の地藏さまは天明4年（1784年）から8年にかけて、東北の各地を襲った大凶作と洪水では、この広野の地においても、多くの人々が飢饉や疫病により亡くなりました。下北迫に祀られているお地藏さま（延命地藏尊）は、天明の飢饉のときに亡くなられた多くの人々の供養のためにと、林蔵寺十七世教蓮社良宣上人のお勧めで、夕筋・折木・浅見川・上北迫・下北迫など、楢葉郡内十カ村の人達によって天明8年に造立されたものです。この地藏さまは、もともと旧広野に祀られておりましたが、一時、林蔵寺にお遷しされたことがありましたが、林蔵寺に遷られて暫くして、旧広野の町は大火に遭いました。町の人々は「これは、地藏さまをお遷したからだ」と言って、再び元の所へお帰り頂くようお願いしました。林蔵寺にお遷したときにはなかなか動かなかった地藏さまをお載せた台車も、お帰りになるときは楽に動きまし、お地藏さまも「にこにこ」と喜んだ顔をされておられたといわれています。



下北迫の地藏さまには、子育ての祈願や、亡くなった子供の冥福を祈る親達が多くお参りに来ます。また、「イボ」で困っている人も、お地藏さまの台座前に置かれた小石を持って帰り、「イボ」をさすると治るといわれていることから、「イボ取り地藏」さまとも呼ばれています。昔は、長雨が続き不作が心配されるようになると、お地藏さまの前に、近にお年寄り達が集まって、「天道念仏」の数珠繰りをして雨止みの祈願をしました。